

★神戸の催し物ご案内

9月

★音楽

★上月昇ビュッショー

8日(水) 7時 神戸文化大ホール S・四五〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円

★神戸青年合唱団

9日(木) 6時半 神戸文化ホール 一般・九〇〇円 中高生・六〇〇円

★ロス・インディオス・タバラス



タバハラス

10日(金) 6時半 神戸国際会館 S・二八〇〇円 A・二四〇〇円 B・二〇〇〇円

★辻久子バイオリンリサイタル

14日(火) 6時半 神戸国際会館 A・一四〇〇円 B・一二〇〇円

★第20回神戸市吹奏楽祭

15日(水) 10時 神戸文化ホール 無料

★甲南大学交響楽団

18日(土) 6時半 神戸文化大ホール 三〇〇円

★西城秀樹

19日(日) ①1時 ②4時 神戸文化大ホール S・二八〇〇円 A・二四〇〇円 B・一八〇〇円

愛読者招待席

★ロスヒターノス一周年記念
特別公演「ビバ フラメンコ」



9月20日(月)
7時 神戸文化ホール(10名)
提供・ロスヒターノス

★因幡良ファーストコンサート
with 浜田良美



10月2日(土)
6時 芦屋ルナホール(5名)
提供・日本楽器神戸店

□ご希望の方は、葉書に住所・氏名・年令・職業・TELをお書きの上、神戸っ子編集室「フラメンコ」の係あるいは「因幡良」の係まで。

★ロバータ・フラック

20日(月) 6時45分 神戸文化大ホール S・三八〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円 C・二〇〇〇円

★ビバ フラメンコ

20日(月) 7時 神戸文化ホール S・二〇〇〇円

★ブラザース・フォア

20日(月) 6時半 神戸国際会館 民音・二四〇〇円

★ナルシソ・イエベスギター独奏会

22日(水) 6時半 神戸国際会館 S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

★高石ともやとナターシャセブン

24日(金) 6時 神戸文化ホール 前売/A・一八〇〇円 B・一五〇〇円

★高山敏

25日(土) 1時半 神戸文化ホール 前売・九〇〇円

★シゲナル

25日(土) 6時 神戸文化ホール 前売・九〇〇円

★市民コンサート

25日(土) 6時 神戸文化小ホール 無料

★ベレス・ブリード楽団

30日(木) 6時半 神戸国際会館 S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円

★文化座「荷車の歌」

13日(月) 16日(木) 17日(金)

18日(土) 6時15分
15日(水) 19日(日) 1時半
神戸文化ホール 一六〇〇円



佐々木愛と鈴木光枝

★その他

★鶴光・朝丸二人会

10日(金) 6時半 神戸文化ホール 民音・八〇〇円

★映画会「山とスキー」

10日(金) 6時半 神戸文化小ホール 無料

★市民映画劇場

「フレリニのローマ」
16日(木) 17日(金) 6時半
18日(土) ①2時 ②4時半 ③6時半 神戸文化小ホール 四〇〇円

★バリブレタボルテコレクション

18日(土) ①2時 ②6時半 神戸国際会館 S・五〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円

★六輔七転八倒九百円

20日(月) 6時半 神戸文化小ホール 九〇〇円

★松竹大歌舞伎



24日(金) ①11時半 ②5時

25日(土) ①12時 ②5時 神戸文化大ホール S・三五〇〇円

A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円

C・二〇〇〇円

出演/尾上松緑・尾上辰之助・坂東三郎・河原崎権十郎ほか。

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します。

★オリジナルブレタボルテショウ
76秋・冬バリモードコレクション
9月18日(土) 2時 神戸国際会館 S・五〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円をそれぞれ一割引。

★ロバータ・フラック



9月20日(月) 6時45分 神戸文化大ホール S・三八〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円をそれぞれ三〇〇円引。

★ナルシソ・イエベス

9月22日(水) 6時半 神戸国際会館

ギター独奏会

ギターの美しさと魂をつたえる「禁じられた遊び」で一世を風靡したイエベスが七度目の来日。

S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円をそれぞれ一割引。

★必殺仕置人―三途の川の風車

10月2日(土) 4時 神戸国際会館 出演/藤田まこと、穴戸錠、菅井きん、芦屋小雁、弓恵子ほか

S・二八〇〇円 A・二四〇〇円 B・二〇〇〇円をそれぞれ二〇〇円引。

ご希望の方は電話かハガキで神戸っ子編集室・優待係へ川崎まで

□人間模様〈第八回〉

虚実の間をゆく／作家

筒井 康隆

重森 守

〈元朝日新聞神戸支局長〉

題字／望月美佐

カメラ／米田定蔵



もの書き、とくに作家について論じるなんてのは、気が進まないなあ。どうせ、本心を明かしてくれないだろうし、それでこっちが見当外れを書けば、ウヒヒヒヒと笑いものにされるのがオチだもんな。

そう思いつつ、神戸・垂水のご自宅を恐る恐る訪れたのであります。

えー、第三者の筒井評なんか気になりますか。

「そりゃ、気になりますねえ。とくに悪口は、好評のときの十倍も早く浸透し、広がってゆく。気にするなっていわれるけど、そんな図太い神経じゃ、作家としての資質に欠けるわけだし……」

ムッ、やっぱりねえ。

「価値がわからんなら黙殺してくれたいいのに、ときたま書かれる。それがたいていは見当外れですなあ」

朝日新聞に批判的な論評がのつたときは、反論めいたものを週刊小説に連載したそうさ。要注意、要注意、雄弁なほうですか。

「いや、まあ、相手によってはネ(突然、カメラマンに)あまり笑うた顔、載せんようにして下さいよ。作家というもんは、そんなに笑うもんやないらしい。とくに僕は、作品からいっても、笑ったらかしい」

しかし田辺聖子さんなんか笑てる方がええと……、「いや、日本人は、どうもホントに笑うてない。それが

写真にはハッキリ出るんでねえ」

どうも、ひどくデリケートなお方らしい。たかが新聞記者崩れが、たかが「神戸っ子」(失礼!)に書くだけのことなのに、そんなに構えなくてもええやおまへんか、といいたいところ。

大阪生まれ。同志社大学を出て、デザイン工房をやるうちSF小説を手がけはじめ、上京して文筆稼業に専念。いまでは星新一、小松左京らと並ぶSF界の売れっ子。

「僕の本、これだけ売れたのは、小説そのものが面白いからです。賞もろたことないし、映画やテレビドラマにもなっていない。僕自身がタレントみたいにテレビに出て、チャラチャラしたこともない。つまり、実力だけでかちとったんやいう誇り、もってますなあ」

同感。(同感ではあるが、そんなに突っぱって、肩に力いれんでもいいと思いますか)ねえ

そういえば数年前、直木賞候補にノミネートされながら結局は落選したとき「ぼくは異常なほど気が小さくて選考の結果よりも、それを気にしてやってきてくれた人に気を使った」と新聞に書いておられた。

「いや、小心とは書かなかったと思うな。折角みんな来てくれたから、賞をとったも同然」ということにして騒いだことは騒いだけ……」

SFは、どうも直木賞には縁がないみたいですね。そ

れとも直木賞みたいなもの、クダラナイとでも……

「いや、そうは思いません。地味な作風で、世間ではなかなか読んでもらえない人なんかに上げるのなら意味がある……」

「ご自身のは華麗で、もう広く読まれている、という自負の裏返し。」

「批評家にしたら、思い切ってSFをほめてみて、後世でその作品がダメってことになったら、えらい恥やからねえ」

どうせ彼等にや勇氣も、先見の明もないんだと、口をゆがめて独特の冷笑。どこかシニカルな、そう、CMふうにいえば「ニヒルな塩味」のきいた笑いである。

たしかにこの人の作品には、われわれ凡俗が評価しにくいものが多い。

このインタビューにそなえて十数篇の短篇集を集中的に読むうち、なにやらこっちのアタマがおかしくなってきたほどだ。

新選組の隊長がホモで「もてたがり」の怠け者だったという話。ハイジャックされた乗客がはしやぎ回って赤軍派を困らせたり、童話「桃太郎」の桃が女性のお尻だったり、自慰にふけるうち超能力が身について、めざす彼女の家へ思うがままに空を飛んでいけるようになる、てなストーリーもある。やたらに乱交パーティーも飛び出



す……。

どれもこれも奇想天外、そのくせ奇妙な空恐ろしい現実感がチラチラ。あ、そういえば入浴中、浴槽の排水口に下腹部のタマタマちゃんがつつも吸いこまれて抜けなくなる、てな話もありましたねえ。

「あ、あれはホントに自分が経験したことです。（ニコリともせず）私の場合はタマ一つで、すぐ抜けましたがねえ」

じゃ、あとのホモもマスターベーションも乱交パーティーも、みな経験から……

「いや、原体験はアレぐらいです」

となると、あの数々のアイデア、いったいどこからわいてくるのかな。

「頭から、としかいいようがありません。けさも中学生グループが取材にきて同じこと聞くんで、そう答えたばかりです」

（どうも中学生なみの質問で、スンマヘン）

ご本人の話では、社会学関係の本を読んでいるとき、それに映画みてるとき、あるいはパチンコをして神経がタマに集中してるとき……にアイデアが浮かんでくるような。

「それと夢みたときですな。そやから、僕、わざと睡眠をむさぼることにしてます。半醒半睡のとき、よう夢をみますからね」

それにしても、あの作品群、マトモな頭からは出てこないような話ばかりですよ。（ちよつとオカシイところ、あるんやないか、という眼差で、シゲシゲとみつめてみる）

「（すかさず）そう、僕のこと、精神分裂症みたいやと思うてる人、かなりあるようですな。被害妄想的な作品が多いから」

たしか劇画の中でも「筒井康隆、ついに発狂、自殺」てなひとコマをこ自身で書いておられる。

「（大まじめに）気がいだったら、どこから先が気ち

がいじみている、どこからが常識か、という区別ができないですよ。だから、気がいがモノを書いて、ああいうふうにはならん。こちらは常識をふまえて書いてますからねえ」

この人の「狂気の研究」は年期が入っている。大学時代精神分析から「この道」に踏みこみ「フロイト選集」を熱読するうち病みつきになったらしい。

「あ、そうそう。こないだ、なかなかオモロイ話、聞かしてね。あるお金持ちの人が精神病院を全快して退院した。そこで世話になったお礼にと病院へプールを二つ寄付した。ところが水は片方にしか入ってない。聞いてみると、この男「こっちは泳げない人のためのプールです」だって。なあーんや、精神病はなおとらへんがなということになった……」

チョ、チョット待って下さい。その話、たしか四年前雑誌に連載していた「乱調人間大研究」の冒頭に書いてはったやおまへんか（と思ったが、口には出さず）あれもこれも、当方を喜ばせてやろうという涙ぐましいサード精神のあらわれでありましょう。

それにしても扱う素材は精神病患者、身障者、老人……など、いま差別問題でやかましい対象ばかりなのに、かなり思い切った表現がしてあって、ハラハラしますよ。「たしかに段々と規制がきびしくなって、やりにくいですな。こないだも、ホステスは身体障害者ばかりというバーの話を書いて、雑誌社を四社ほど持つて回ったけど、どこもこわがってしまって、使ってくれませんでした」

ケロッと口にするところは、なかなかハラがすわって証拠。筒井康隆ファンクラブもできたそうで、いよいよ脂がのりきった感じがしますな。

「ファンクラブ、あんまり派手にちゅうか、文壇に知れ渡ると、どうもねえ。タレントみたいになるのもどうかと思うし、とにかく名前は筒井倶楽部ということになりました」

またまたヘンな気がねしてる。もつとのびのびやったらどうです。SF志願の後進の指導なんかは同人誌まで主宰して、作品批評してみてもなかなかシンラツじやないですか。

「もうかなり粒がそろって出てきましたからね、そろそろやめよか思ってます」

地味に、堅実に、ひかえ目に、かと思つと一転して「まともな女性ファン、ふえてきましたよ」と誇示してみせたり……。

「ことしの早稲田（大学）の卒論に、僕のこと書いた女子学生がいますよ、僕を安部公房、大江健三郎やなんかと並べて、比較論……いや想像力論やったかな。そんな読まされても、ようわからんやろけど……」

自己顕示と自己抑制。その間^{はさま}で、狂気とは無縁の大マジメ人間がウロウロ。

「子どもとは、よう遊びますよ。いまも、タイムマシン

を一緒につくつてたところ。忙しかった父が僕にしてくれなんだことを、わが子にしてやってるつもりです」

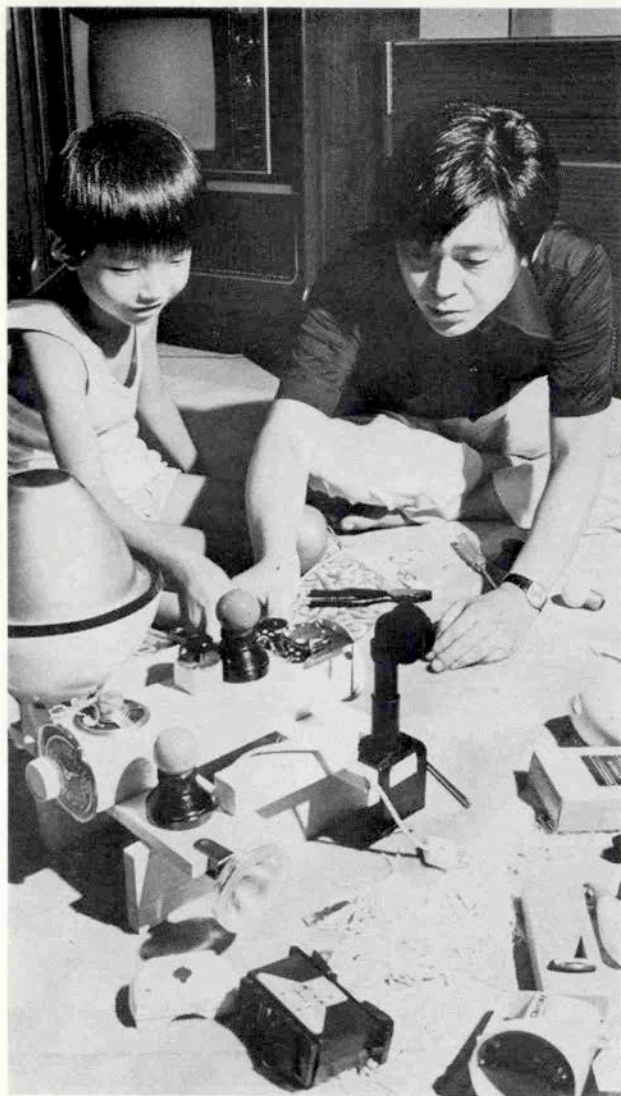
子ぼんのうなSF作家なんて、ややシマラナイ感じもしないではない。第一、神戸へ居を移してもう五年近いというのに、派手なウワサひとつ聞きませんよ。

「メチャクチャな友だちがいはいせいでしようねえ。街にも、もうひとつ深いなじみの人が少ないし……」

だから、でもあるまいが、応接間にデンとすわったドラム。ちよつと叩いてみせましょか。いうなり激しいリズムが飛び出し、顔面みるみる紅潮。「これこそ偽りなき素顔」と思わせる目の輝きが――。

うーむ。

こうなると、いままでの発言、すべてデタラメ、ざれごと、心の中とは正反対の、虚構ばかりみたいな気もする。うそか、まことか、あまり考えるのはやめよう。こつちのアタマがおかしくなつてきそうだから。



タイムマシンを製作中 SF作家も子ぼんのうなのです。

緑の輪を 拡げるために

出席者

日高 宗敏

△兵庫中央緑化農業協同組合代表理事▽

松本 玉緒

△神戸市婦人団体協議会副会長▽

土居 昌美

△一九七五年度、クイーン神戸▽

——このたび新しい花と緑の名所として関西グリーンセンターが神戸の西にオープンしたわけなんです、その概略とか主旨というのはどういったことなんでしょう。

日高 一番の主旨というのは、緑で美しく街を作りたいということなんです。これまでも私どもは、九州の種子島で約九年間、延々と緑を作って来たんですが、これを関西から関東にかけての緑化の基地にしたいと思い、四年前に稲美町に池を二万坪買い、それを埋め立てて持っていたわけなんです。それで、このたび、新しいしくみで緑の輪を広げて行こうということで、事業名称を関西グリーンセンターとし、一方にはみどりの農協と呼ばれてい



日高 宗敏さん

る兵庫中央緑化農業協同組合という日本で初めての組織を作り、また一方には、一人でも多くの方にこの農協を見ていただくという主旨を持って作ったのが、株式会社グリーンセンターの健康ランドというわけなんです。

しかし、健康ランドと一口にいっても、ただ単にスポーツのみというのではなく、あくまで緑を中心に、緑に親しんでいただくための組織であるというのがテーマです。から、緑の輪を広げて行くためのグリーンセンターであると思っていた方がいいわけです。

この七月十日にオープンしたばかりで、これまでもいろんな紆余曲折があったのですが、どうにか形を整えることができるところから動くものへ、また動くものから作るものへというように、だんだんと皆さんから親しんでもらえるための組織作りという主旨でやっていきたいと思っています。

松本 緑の輪を広げるといえるのは、具体的にはどういうことなんですか。

日高 従来、緑というのは非常に聞こえがよくてよく耳にはするのですが、どうも名前だけの緑というのが非常に多いように思うんです。本当の緑というものを自分の





松本 玉緒さん

手でじかに作って、それを広げて行こうとする状況というのとはなかなか生まれにくいわけなんです。これは、生産者から消費者にわたる機構にも問題があって、緑化の場合、特に買手さん市場で、本当の値段というものは作った側がつけられないような状況にあったわけなんです。ですから、本当に自分が手しおにかけて作ったものを、本当に安く消費者に直接渡すための機構の改善というのが一つの大きなテーマになっているんです。ですから、その一つの方法としてみどりの会というものを設けて、それによって緑の輪を拡げて行きたいと思っています。

土居 そのみどりの会に入ると、どのような特典があるんですか。

日高 一つには、健康ランドを非常に安く使っていたら



土居 昌美さん

けるというメリットがありますが、それと、皆さんが育てられた苗木などを、直接消費者の皆さんに優先的に売ることができるとです。ですから、普通のご家庭の奥様がご自分で作られた盆栽を持って来て売ったり、あるいは買ったりすることもできますし、要するに、そういった交換の場として利用していただけるわけです。

松本 では、これは会員制になっているんですか。

日高 いえ、普通の皆さん方でも利用していただくんですが、特にみどりの会の会員になっていただきますと、いろいろな意味でご利用の金額が特別に安くなります。それと、普通の農協の場合でしたら組合員が主体で、その場合、農協法に定められたテリトリーの範囲内の人でないと組合員にはなれないんですが、みどりの会の場合、緑の輪を全国に広く拡げて行くための会員ということで別途会員組織をしいたわけなんです。

松本 入会する時には、どんな手続きがいるわけですか。

日高 三万円程度の木を買っていただいた方は、すぐに緑の農協のみどりの会員になれます。それと、木を買わなくても入りたいという人は、料金の安い分の先払いをいただくような格好で、二万円お支払いいただければ会員になれます。

松本 その場合も家族四人までは同伴可ということになるわけですね。

日高 ええ、これは基本的には三万円ということだったんですが、団地などに住んでる方などから、木はいらないけれど会員になりたいという要望が随分沢山あるんです。それで、そういう方々の声を集約して、どういう形が適当かということで検討した結果、こういう形になったわけなんです。

土居 グリーンセンターの主な施設というのは、どんなものがあるのですか？

日高 グリーンセンターは約六万六千平方メートルの敷地があって、約半分がみどりの農協で、あとの半分がスポーツランド、健康ランドにあてられています。農協



右 50m公認プールほか広びろとした緑
 いっぱいのグリーンプール。
 中 すがすがしい空気の中で白球を追っ
 て。全天候型テニスコート。
 左 子供たちの人氣的、子供たちが自
 然にかえって遊ぶキンダーランド。



には、盆栽コーナー、緑化木コーナー、委託販売の庭木園のコーナーの他、皆さんになごやかにくつろいでいただくとうと、くつろぎの丘というものを作っています。グリーンセンターには、まずプールがあって、キンダーランド、フィールドアドベンチャー、ベビーゴルフ場、テニスコートなどが作られています。

土居 スケートリンクは、オールシーズン使えるという随分新しいものだそうですね。

日高 はい。これは従来の氷を冷やすリンクではなく、グリーンスケートというアメリカで初めて開発された合成樹脂板を取り入れて作ろうということなので、まだ完成はされていませんが、でき上れば、日本でも初めての特殊リンクになります。

松本 これまで、お話を伺って、一つは緑、またもう一つは健康ということで、その両方とも、現代人が失いつつあるものですから、それらを前面に押し出してやられ

るとするのは、すばらしいことだと思いますね。遊ぶ道具も沢山あるようですから、行ってみたら、とても楽しい所じゃないかと思えます。今、余暇の利用の仕方を知らない人が非常に多いように思えますよ。もう少し、緑に親しんだり、年配になってもスポーツを楽しんだりすることができたら、どんなにすばらしいかと思うんですが。そういうようなことから、現在、マラソンが非常に盛んになって来て、婦人会の方々でも、夜百人近くの方が走っていらっしゃる。どんどん、そういう健康作りということが見直されて来て欲しいと思いますね。

日高 健康作りということになりますと、健康の基礎は何といっても太陽とか水とか空気だと思えます。それで、大きくいえば、緑というのは酸素の供給源ですので、そういう意味で、将来は大きく空気の浄化を狙った森造りということをやりたいですね。

土居 自然というものを考えると、神戸は、六甲山や瀬戸内海を控えていますので、他の大阪とか東京などよりも恵まれていると思うんですよ。でも、小さい頃は海とか山とかに親しむことができたんですが、ある程度大きくなると、それからかけ離れた生活になってしまうと思います。例えば、お勤めに出ると、一日中ビルの中で太陽とか新鮮な空気に触れることもないわけで、大きくなるにつれてだんだんと、本来人間は何に接するべきかということ忘れて行くような気がするんです。ですから、道具によつての健康管理というのは、あまり好ましいとは思えないのですが、現在の環境の中では、そうせざるを得ないわけで、グリーンセンターができたというのはすごくいいことだと思いますね。

それと、こういうセンターというのは、とかく会員以外の人は行けないという感じがあるんですが、グリーンセンターはそうではないということで、これから大いに宣伝してもらって、多くの人が利用できるようにしていただきたいと思います。

日高 ええ。できるだけ多くの方に利用していただきたい



いと思ってるのですが、その一環として、今日、これを機会にお子様がおギヤーと生まれたら、クスの木を誕生記念の樹木として差上げたいと思っていますよ。

松本 それはすばらしいことです。赤ちゃんが大きくなるにつれて、クスも大きくなって、僕の木はどんなになったんだろうと時々見に行けるというのは、本当に楽しいことだと思いますよ。

神戸市がグリーン作戦を始めてから今年で七年になりますが、それと同時に婦人団体協議会も、それに何とか協力しようということで、婦人会の活動の中にも自然環境という部会を作りまして、街に花いっぱい運動を展開して行こうとかやってきましたが、なかなか実践が伴わないわけなんですよ。皆さんそうだと思いますが、遠くへ行つて神戸へ帰つて来ると、六甲山を見て、あんなつかしいなああって気がすると思うんですね。ですから、そういう気持ちを大切に、もっと樹木や花に関心を持って大切にして下さるとどんなにいいことだろうかといつも思ってるんですよ。そういう意味からも記念植樹というのはいいことだと思いますね。

土居 自分で植えた花とか木というのは、凄く大切にしますものね。ですから、花一つでも自分で植えるというチャンスがあるといいと思います。すべてを完備したというのではなく、私達が少しは手を入れられる楽しみがあるというのも大切じゃないでしょうか。

松本 それは確かにそうですね。婦人会の方でも、グリーン作戦が始まりましてから、六甲の禿山に白梅と紅梅を植えたんです。私達がちゃんと穴を掘ってシャベルで土をかけたんですが、やっぱり、自分達の植えた梅がど

んなに大きくなったかすごく楽しみですね。

日高 一粒の種から木を育てるということは、子供を育てることと何の変わりもないと思いますよ。やっぱりそこには夢があるんですね。また、それ位愛情をかけませんとやっぱりなものが育たないわけなんですよ。

松本 全くその通りですね。フラワーベイスの花にしても本当に愛情がないと育って行きませんね。それで一番熱心な方なんかは、朝の掃除が終わるとフラワーベイスを雑布がけなさるんですよ。ですから、人がちよつといたずらしたり、花が抜かれたりすると、まるで自分の体が傷ついたみたいに腹が立つんですね。ですから、何かを育てて行くという夢というのは、どんなに小さなことでも大切だと思いますよ。

日高 そういう意味で、本当に緑というものを認識いただいて、たとえ今花が開かなくても、長い目で見て、次の時代、あるいはその次の時代にいい事をしているってこれといわれるような組織にしたいと心から思っているわけですよ。ですから、そういう主旨のものとして、皆さんから賛同を得、愛されるセンターとして長く残したいと思っています。

土居 緑がどんどん増えていったらすばらしいことだし、これからも市民レベルでのみどりの普及が大切ですね。

松本 きつと先々喜こばれると思いますよ。

日高 将来は、日本緑の会というのを発足させたいという夢を是非果したいと思っているんですよ。

(レストラン プラン・ドウ・プランにて)

プレゼント

関西グリーンセンターでは、現在結婚を予定されているお二人に、兵庫県の県木であるクスの木をプレゼントいたします。グリーンセンターに植樹していただいてもお家にお持帰りたいだけでも結構です。ご希望の方は、はがきに挙式予定日とお二人のお名前、ご住所をお書きの上、葦合区浜辺通五二一 神戸商工貿易センタービル20F 関西グリーンセンター神戸サービスセンター 結婚記念樹係までお申し込み下さい。折返し関西グリーンセンターへのご招待券とクスの木の引き替え券を差上げます。

秘められた日米交渉史

おおわが音楽隊よ

春木 一夫 〈作家〉 え・たかはし もう



昭和23年、西宮署巡査当時の筆者

本誌四月号に、西村雅司君の言葉として、次のようなことが掲載されている。

「進駐軍で思い出したけど、警察学校の生徒であつたある警察官が、△西村さん、警察学校の課外授業でジャズの話をしてくれませんか、予算はないうですけど▽つていつてきたんです。それで、電蓄とレコードとをかついで、松原の警察学校で課外講師を始めた。毎週一回一年間。その後三年目にわかったことだけど、僕にはちゃんと講師料が出てたんです。それを三文判で受け取ってたんが、そのたのみに来た警察官。それが現在作家で活躍中の春木一夫や。(笑) △お前その金何に使った?▽いうと、△西村さん、よう一緒に飲みに行きましたでしょ▽(笑)」

その警察学校でやつてゐる時に、春木君が、△聴くばかりもええけど、演りたいっていうのがおるんです。何かええ楽器ありませんか?▽つていうんでMP本部を紹介したんです。春木君が行つてね、

△地下室に楽器がゴロゴロしてたで▽といてて全部もらつてきた。それが、今の兵庫県警のブラスパンドの前身や。(笑) 県警ブラスパンドの創立の本当の意味で、イニシアチブをとつたのが春木君になる。(笑)」

間違つたことをいつてゐるなと思つたが、満更の嘘でもない。事実を誤認しているだけなので、放つておいた。

その直後、陳舜臣氏に偶然出会つた。

「講師料をちよろまかして飲んだんかい」

いきなりいわれた。真相を話すと、

「そりや訂正しとかないかんぜ。君の名誉のためにも」と注意を受けた。

優れた作家であり、歴史家でもある氏にとっては、後世何びとかが神戸市井史を書く場合に、西村君の記事が悪用されるのではないかとのおもんばかりであつたと推察された。

話は二十六年前にさかのぼる。四分の一世紀前だから古色蒼然たるはずだが、私にとっては実に生き生きとして、カラフルに思い出されてくる。

昭和二十五年の三月。私は生田署の巡査部長だったが現任教養生として二か月間、神戸市警察学校の学生とし教養を受けていた。音楽好きの私は、警察官に音楽的情緒が少ないことをうれえ、教頭の津田警部と相談した。その結果、西村君に課外教育として音楽の話をしてくれと頼んだ。それは、西村君が市民音楽協会をつくり、音楽の普及に努力していたことを知っていたからである。

それに、もう一つ。警察にはゼニコがなかったためでもある。そのころの神戸市警察局は、自治体警察の発足以来まだ二年しかたつていず、極めて弱体であつた。警察予算も神戸市が今と違つて貧乏だったから充分ではない。特に教育予算は貧しかった。私が教養生として入校したのも、津田教頭に頼まれ、学校にPTAをつくり、その援助で教養費の一部を補なおうとするがためであつた。

西村君にもその理由を話した。

「無料でやってくれへんか」

「よっしゃ。公僕の警察官がよくなることは、神戸市民のためや。引き受けた」と快諾してくれたのである。

このようないきさつで、彼は講師を引き受け、その後一年間、毎月無料でやってくれた。だから当然謝礼は出していない。そして私は、彼が講師になった時点で学校を卒業しているから、講師料を横領するチャンスはない。

次に警察音楽隊のことだ。これにも誤解がある。音楽講師の話をする約一か月前のこと。大阪城で大阪警察音楽隊の演奏を聞いて感動した。隊長の話によると、奈良にも警察音楽隊があるという。公憤にかられた。

——奈良みたいに小さな町でもあるのに、大神戸にないとはけしからん……

音楽隊をつくるには、人員と楽器が必要なのはあつた

おおわが音楽隊よ……
ブカブカドンドン 警察音楽隊が誕生



り前。帰校後募集をしたら、たちまち十名の希望者が集まった。楽器については西村君の高見をうかがうべく、彼の事務所・元町通り三丁目の「切味の店」を訪れた。

「進駐軍の神戸ベースに、吹奏楽器が余つとるで」

「そりや好都合」

さつそく神戸ベースを訪ねることにした。具合のよいことに、神戸ベースの高官に友人のいたことである。

軍隊の幹部候補生の一期先輩で、竹田羔一という牧師。進駐軍の祈禱僧として、ベース隊長と同階級の中佐待遇だ。竹田牧師は戦争中、英軍の捕虜収容所長をしていたので、戦犯として投獄された。このニュースを聞いて、収容所にいたことのあるイギリス兵たちが憤激した。

「あんな神さまのような所長を戦犯とは」

すぐさまエリザベス女王に嘆願書提出。女王から直接マッカーサー元帥に事情が伝えられた。あわてた進駐軍は、いそいで彼を釈放した。いやそれどころか、偉大なる宗教家として、三顧の礼を以て彼を神戸ベースの祈禱僧として迎えたのである。

神戸ベースの一室へ訪れた私を、武田君はよろこんで迎えてくれた。来意を話すと、

「いい話だな。私からもよろしく頼んであげよう」

担当の日系大尉を呼んで紹介してくれた。

「かしこまりました」

大尉は武田君の前ではよい顔をしていたが、彼の事務室へついていくと態度を一変。威たけだかとなった。

「日本の警察官が米軍の楽器を使おうとは、養生気な。絶対に貸すわけにはいかん」

「というたかて、あんた武田君の前では貸すというたやないですか」

「あれは表向きのことだ。被占領下の日本人が、われわれと同じ権利を行使することは許されない」

「牧師をだましたら、地獄に落ちまっせ」

「地獄の方が忙しゅうて、ひまな天国よりはましだ」

「あんた、日本人とちがうんかいな」

「親は日本人でも、おれはれっきとしたアメリカ人だ。敗戦国の日本人とはいっしよにするな」

「ええかげんな男やな。日本ではな。あんたのようなやつを面従腹背の徒やいうてもっとも軽べつするんやで。アメリカへ帰る土産によく覚えとき」

「何をっ」

大尉はにぎりこぶしを振り上げた。私は両ひじをからだの横に引きつけて拳をにぎり、逮捕術の構えをした。相手が撃つてくればみぞ落ちに一撃を加え、キン玉を蹴り上げるつもりである。一発必殺の構えだ。相手は私の構えを見て蒼ざめた。

「おのれ、進駐軍に向かって」

「進駐軍ではない。二枚舌のエセ・アメリカ軍人に対してだ。本もののアメリカ軍人はもっと公正で、立派な人格者だ」

ののしり合っている、同僚の米人将校が飛んできて二人の仲を割いた。

しかし、学校へ帰ってからはどうしようかと困った。

仕方なく志望者たちを集めて、意見をたずねた。

「アメ公め。なんかしくてくさんねん。そんならおれたちで何とかするわい」

カーツと頭にくたらしい。急に敗戦国の民族意識を燃え立たせ、四方に散った。私も川崎重工の労働組合から大きなドラムを借りてきた。隊員もピッコロ、フリュート、ギター、アコーディオンを集めてきた。

「二曲だけでええ。しっかり覚えるんやで」

私がリーダーとなって気合いをかけた。放課後、ブカブカドンドンと練習をした。ちり払いの布切れの部分を切り払って、指揮棒にした。二、三日使うと、事情を知らぬ掃除当番がごみと間違えて捨ててしまう。庶務主任がなぜこのごちり払いがなくなるのかと生徒たちに聞き回ったほどだ。二週間ほどで、どうやら警察行進曲だけは、音が出るようになった。校長の西岡警視に話したら、さっそく朝礼にやれという。先頭に立って鳴らして

いったら、生徒たちがとてもよろこんだ。

—— おお、わが音楽隊よ……。

と喜ぶ。チンドン屋だとは誰もいわない。元気が出まっせということ、毎日先頭に立って歩いた。そのうち、もう一曲覚えた。しばらくすると、本部から古山警察局長や渋谷警務部長が交代で、見学にきた。

「こりやよいもんじゃ」とほめてくれ、渋谷さんはいくらくらいかかるだろうかとたずねた。

「五十万円」

あらかじめ調べておいたので、とっさに答えることができた。

「予算化するのに、時間がかかるかも知れんな」

渋谷さんが遠い目をした。二十五年ごろの五十万円は大金である。私の月給の一〇〇倍にあたる。

翌二十六年になって、ようやく楽器を買うことができた。音楽隊の発足は九月である。当然、音楽隊長になれると思っていた私の目算は外れた。軍楽隊出身の馬場という巡査部長が隊長になった。そこで、人事を扱う警務課長のもとへどなり込んだ。

「なぜ、おれを隊長にせえへんのや」

「君は楽譜が読めるのんかいな」

「勉強したらええのやないか。隊員も素人だっせ」

「君はもうすぐ警部補になるのやろ。音楽隊に警部補の定員はない」

軽くないなされた。定員がないといわれれば弱い。仕方なく断念した。やがて、関協の指揮者である朝比奈隆さんが教官として招かれ、指導者となった。技術はぐーんとあがり、本ものの音楽隊へと近づいていった。

昭和三十年六月三十日、神戸市警は解散、県警一本に統一された。日本における自治体警察の消滅である。音楽隊も県警に引き継がれた。

その後、精進の結果、兵庫県音楽隊は日本一となった。衣笠隊長指揮のもと、音を通じて県内の人々の心を楽しませている。



ジューンブライドニ
サチオオカレ!

＊ウェディングケーキご婚礼お引出菓子予約承ります

北 欧 の 銘 菓 ユーハイム・コンフェクト

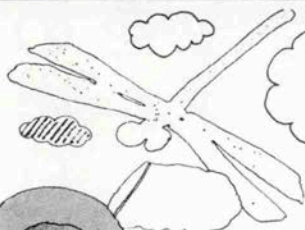
■本社・工場・熊内店 神戸市灘区熊内町1-8(市立美術館東隣) TEL 221-1164
■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸デパート・元町店



おすし
てんぷら
榮 彌

本店 大丸前・三宮神社東
TEL(331) 5772
567374
(毎週水曜日休み)
支店 さんちか味ののれん街
TEL(391) 5233
(第3水曜日休み)

営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00



聞こえてるよ
元気な声が。

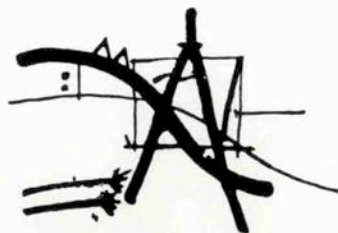
よい子のともだち
いつも——。
おもちゃの

カメヤ



三宮方面でのお買物は…
さんちか店 ファミリータウン ☎ 391-4045
三宮店 センタープラザ1階 ☎ 331-4969
元町方面でのお買物は…
元町店 元町通3丁目山側 ☎ 331-0090
パンブウ店 元町通1丁目不二家前 ☎ 391-0768
神戸駅前方面でのお買物は…
サンこうペ店 神戸駅前地下街 ☎ 351-6002

額縁絵画・洋画材料 室内工芸品



末 積 製 額

三宮・大丸北
トア・ロード
331 1309・6243

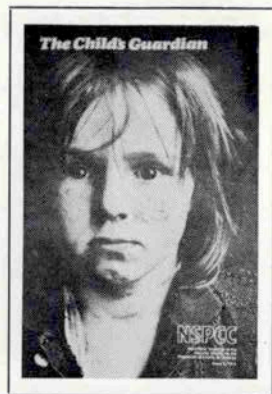
□神戸を福祉の町に 33

児童の虐待防止

活動を

橋本 明

△社団法人家庭養護促進協会事務局長▽



「児童は、人として尊ばれる。」

児童は、社会の一員として重んじられる。

児童は、よい環境のなかで育てられる。」

これは昭和26年の子供の日に制定された児童憲章の前文の一部である。

敗戦後の混乱期に、日本の復興の原動力として次代の新しい日本の社会を築いていく子どもたちを、心身共健やかに育てていくという日本人の願いがこの格調高い憲章にこめられているが、この児童憲章が制定されてから25年にもなる今日、憲章にこめられた願いとは程遠い現実の社会を凝視すると、憲章が全く空文化し、しらしささえおぼえざるを得ない。

人として尊ばれず、社会の一員として重んぜられず、よい環境のなかで育てられない子どもたちを余りにも多く日々の仕事の中で見聞きしている児童福祉関係者にとっては、小さな子どもたちの、人間としての基本的人権



NSPCC の書物に紹介されている子どもたち

すら守られず、生命の危険さえおびやかされていることに常に憤りを感じている。

しかし、弱い子どもの権利がなかなか守られていないのは日本だけでなく、欧米諸国でも同じようである。

イギリスでは毎日二人の児童が虐待で殺され、数多くの児童が虐待をうけて生命の危険にさらされているといわれている。この児童の虐待を防ぎ、虐待から子どもを守るために、イギリスには「NSPCC (全国児童虐待防止協会) National Society for the Prevention of Cruelty to Children」という民間の福祉機関がある。

関西学院大学教授の本出祐之氏が昨年一年間イギリスに留学された時、このNSPCCの本部を訪れ、活動の様子を見てこられたので、本出先生のお話を中心に、二回にわたってイギリスの児童虐待防止活動の状況をまとめてみます。

☆イギリスのNSPCC△全国児童虐待防止協会▽設立の経過について

一八八一年イギリスの銀行家T・F・アグニュー氏がニューヨークを訪問していた時、たまたま「ニューヨーク児童虐待防止協会」のことを知った。この協会は有名な養女メリー・エレンの事件を契機に一八七五年に設立されたものである。

メリー・エレンの虐待は一人のボランティアの女性宣教師が死にかけている移民女性を訪問した時に発見したもので、この死に瀕している女性が日夜隣接室でひどい



虐待を受けた子どもたちの背中 (NSPCC の書物より)

追いかえしてしまった。そこで彼女はメリー・エレンを助けるために警察や治安判事、慈善協会長やいろんな市民に協力を依頼したが、法律ではこういうケースをどうすることもできず、親は自分の子どもを打ち懲らす権利をもっているということを教えられただけだった。

そこで彼女は最後に「ニューヨーク動物虐待防止協会」の創立者、ヘンリー・ベルグ氏を訪ねて助けを求めた。ベルグ氏は友人の弁護士と一緒にメリー・エレンの救助を正当化するようないくつかの法令の本をさがしまわったが、動物を法的に保護できても、子どもを保護する法律はどこにもないということがわかっただけであつた。しかし、動物虐待防止協会の職員たちは子どもの保護を動物の保護と同様に判断し、やっとのことでメリー・エレンを救出した。その時メリーは頭や身体をハサミでいためつけられて、深い切り傷を身体中にいくつもつけられていた。この事件はニューヨーク市民に強いショックを与え、子どもを虐待から守るために市民に広く呼びかけ、防止協会が設立されたのである。

この「ニューヨーク児童虐待防止協会」設立の話を開いてアグニュー氏は大変感銘を受け、一八八三年四月十九日に「リバプール児童虐待防止協会」を設立し、アグニュー氏は初代事務局長となり、その年に二一一件のケ

ースを扱い三七八人の子どもたちを救った。

この活動はイギリス各地で注目を集め、翌年「ロンドン児童虐待防止協会」が設立され、ベンジャミン・ワーフ氏が事務局長となった。ワーフ氏は「サンディ・マガジン」の有能な編集者であり、彼は「チャイルド・ガーデアン」という協会の機関誌を発行し、虐待児童を救う啓蒙、情報活動を展開したり、保護の必要な子どもが発見されると自分の家で世話をするなどこの活動に全力を投球し、今日イギリス各地に設立された児童虐待防止協会の礎を築いた人物として協会の歴史に名をとどめている。一八八九年にはビクトリア女王が後援者となり、後に、今日「Children's Charter (児童憲章)」として知られている「児童虐待防止法」も制定された。

この児童憲章では子どもに対する犯罪を法律で罰したり、児童の就労規則を大幅に変えたり、また警察官が児童の虐待を目撃した場合、ただちに逮捕したり、子どもにとって危険が予想されたりする場合はその家庭に踏みこんで子どもを医者に診断させたりするような権限も与えられるようになった。

イギリスのNSPCCは子どもの立場に立って、子どもの権利を守り、保障するために大規模の広い活動を各地で展開しているが、協会の将来について現在のディレクターであるオーサー・モートン氏は次のようにのべている。

「こういう民間団体というものは常にコミュニティの道義心や良心の表現であり、またそうあらねばならない。

アリストテレスが最初に教えたように、そして思想家たちが常に信じてきたように、国家は国民のためにあるのであって、国民が国家のためにあるのではない。NSPCCのような力強い民間団体に信頼をおいてください。なぜならこれらの民間団体は国家の健全な発展にとって欠くべからざるものなのだから——」。

スノッフな

パリ情報を。

金子 正男 ▲ジャヴァ企画開発室▼

今年4月、パリへ行った時の事などでも……

夜7時羽田を発ち、アンカレッジを経由し、パリ、シャルル・ドゴール空港に着いたのは、早朝6時頃だったと思う。税関で入国検査をすませ、空港の外で待っているバスに乗り込むべく、バイブ状のカプセルの様なエレベーターに乗り外へ。まだ薄暗い早朝のパリ郊外、空気がうまい、素敵だ、淡い紫の霧の中に立ち並ぶマロニエ、一直線にのびるその道路は、早朝のためか車が少ない。



一台、二台
淡い霧をか
き消すよう
に走り去っ
て行く。何
かの映画の
中でこんな
シーンが登
場して来た
ような気が

したが、何の映画だったのか思い出せなかった。とにかくバスに乗り込む、後の座席へ当然（僕はバスへ乗る場合、いつも子ども頃から一番後の座席だったような気がする）のように座り込む。ふと気がついた、そうか今パリに来ていたんだな！

固そうなパンを一切れ、一切れ、口にほうばりながらついて来るデブツとした男の運転する車、ヒステリックにやりとりしている若い夫婦のような二人づれの車どうか、何十年も前に新車だった頃にその人の青春もあった



写真ぎらいの筆者、金子さん。パリにて。

ようなカタカタ車を運転する初老の紳士、だとかがバスの後から来るのである。全部外人なのである。羽田出る時もそうであったが横文字から受ける印象は余りない。すれ違っていくどの外人の印象も、いま住んでいる場所が神戸の北野であるためかピンとこなかった。

でも、いま僕が目にしてるのはまさしく、バスの中以外の人は東洋人ではない。空港を出たとき感じた事などまったく忘れていて、△リヨン△と書かれている標識が後方にとび去って行くのと、楽しそうな色の外車が目に入って来て初めて気がついたのである。

その日は当然のように観光である。まずモンマルトルに着く。どこも店はまだ開けていない。ただ絵画のキャンバスが目に入って来るだけである。何年か前、東京にいた頃（当時400円だった）渋谷駅前を買った少年と少女が描かれたマンガチックな絵と同じ物が売られているのに気がつく、近づいて見ても同じにしか見えないが値段を見てビックリした。50F（フラン＝約70円）、その絵たるや、プリントされたものに彩色されただけのものである。観光客相手の商売とはこんなものかと感じる。モンマルトルの印象とはこの程度で、坂道については北野町とさしてかわりない様であった。シテ島を回って、セーヌ河にそってエッフェル塔へ着く。僕は自分が写真に写るのが余り好きでない（顔がマズイからではない）が、みなさん観光用の顔でエッフェル塔を背景に撮っているのに、ブ然としているのもおかしいから、僕も右にならえて撮ってもらった。やはり撮らなければよかった。現像された写真を見てガツカリ。景色と人物を別々に撮っ



て、合成された写真、まさしくあれと同じなのだ。僕が写っている写真はこれとオペラ座の近くのカフェで撮っ

てもらった（この写真はパリジャンに撮ったいたがビンボケ）一枚と、地図に見入っている写真（まるでパリらしくない建物バック）と計る枚だけである。

とにかく一日目の観光は終り、ホテルに着く。翌日からは自由であるがあと13日間のスケジュールを考えるのはナンセンスだと決め、食事の約束をしてあるのでホテルへと出掛け、目的の人と合う。偶然、友達とも合う。連れだつて一緒にサンジェルマンデュプレへとむかった。

友達の知っているレストランへ向ったが満席の上、予約がないとダメだと気がつく。しかたがなく路地裏のレストランへ行く。ここはOKであった。注文である、さっぱりわからない、手書きのメニューアレギーはこれから始った。幸い友達がフランス語が多少出来るので、何とかブフとか、何とかフロマージュとか注文していたよ

うである。

後で聞いた話では彼氏も手書きメニューは読めないらしく、知っている料理を注文してただけの

ことである。おいしい料理を食べるには手書きのメニューのおいてあるレストランが一番、でもネエ……、パリの中で一番おいしいと感じたレストランは何んといつても「プロコップ」であるぞ。一日目のパリ感はこちらにして、フアッションについて書くことにしよう。

さすが、ポルトドベルサイユ展は世界中から集まって来ただけあって、その年の傾向はすべて知ることが出来る。会場に出入りする人々にカメラを向けること三日間。その着こなし方はユニークで参考になるものばかり。ただタメ息、素敵なパリジャンの多くは、決して高価な物だけでなく、安物も素敵に見せている。その点、日本人の場合、品数が多い割には安物は安物ほく見えてしまうのはなぜだろうか？ ハッキリいえるのは、自己主張が出来ていない。着る心とは、意識の表現だと思うのです。……パリの新しい地区、レ・アル、ここはパリの中のどこよりも、ショックを感じました。仕事を通じ、いつもいづれ何かが不足しているものがあるような気がしてならなかった。企業を通じて、少なくとも自分を表現しているつもりだったのが、うそである気がついた。情報の上に乗っかっていただけで、自身の意識主張の上で物作りが出来ない。レ・アルの一つ一つのブティック達はただの情報提供だけでなく、会話があり、今の若者の生活空間がある。それは、日本にある同じ形にバックされた生活空間のバターンではなく（最近のチェーン店のような）個々の主張の中の空間がある。恵まれすぎている時は、必要な物と不必要な物とのより分け方をよくさせるものです。パリは、良い物がいっぱいある。でも決して日本ほどに生活空間だけではなく、フアッションにおいても物量に恵まれているとは思えない。ただ、いかにして、自身の生活空間の意識を最大限エンジョイさせるかたえず考えているかいないかの違いだけのよう気がしました。

△写真は、ポルトドベルサイユ展に出入りするスノッパな着こなしの人々のスナップ。着こなしはユニークで参考になる▽

「神戸の夜一男の群れ」

神戸 J・T・C メンバー

田中 謙司 <田中洋服店、K.F.S.>

中島 正義 <中島洋服店、K.F.S.>

清水 久雄 <清水洋服店、K.F.S.>



場内でショーをみせる神戸J.T.C.のメンバー

松浦さんに続いて8月例会は、神戸ジュニア・テラー・クラブの皆さんが、タキシードに挑戦して自分自身のデザインでそれを着るショーを業界仲間に紹介したというので、K.F.S.会員も多いのでさっそく、ショースタイルで見せてもらった。ファンシイなタキシードや、本格的なものなど様々あり、婦人服側の会員から活発な意見がでてその交流のやりとりなど興味深かった。

●9月マンスリー

サロン予告

9月8日(第2水曜)

午後6:30分より

県民会館1201号(12F)

9月のゲスト講師

「アメリカの家庭と
ファッション」

竹田洋太郎

<ニューヨーク在 4年>

元神戸新聞論説委員

会員は無料、会員代理も無料一般聴講
歓迎<¥1,000>

■K.F.S.情報

●10月17日に'76コウベファッション
フェア

第4回のコウベファッションフェアにK.F.S.会員の藤本ハルミさん、中島嘉子さん、柳本薫さんらが<K.F.S.より>出品。K.F.S.としてはこのショーには不参加。10月のマンスリースalonの例会に参加し、また、できればクリスマスパーティを、ファッションパーティとして参加するという案もでている。

今のところ企画段階です。

★K.F.S.メンバーによるP.R.

室内を演出する

神戸装飾 株式会社

神戸市生田区中山手通2丁目64ノ4

三宮販売部 Phone (331) 0557

神戸もともち

大 丸

Phone 神戸 (078) 331-8121

ミセスのための婦人服

Vert ヴェール

伸和スタイル株式会社

神戸市葺合区生田町3丁目17

Phone (241) 8691

チョコレート

モロゾフ株式会社

神戸市東灘区御影中町6丁目11番19号

Phone (851) 1594

コウベセンスで創る婦人靴
株式会社

TUKASA ツカサ

神戸市長田区細田町5丁目2ノ28

神戸化学センター5F Phone (691) 7739

株式会社 阿曽理容店

神戸営業所 神戸市葺合区浜辺町5ノ2ノ1

神戸商工貿易センタービル11F

Phone (251) 3010

株式会社 理容アソ

大阪市北区小松原2、富国生命ビル1F

Phone (331) 2214

オートクチュール

マーガレット

藤本ハルミ

神戸市生田区三宮町1丁目29

Phone (391) 1134

オートクチュール

アトリエ・ヨシコ

中島嘉子

トアロード・クロスビル Phone (321) 2268

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
 <神戸のファッション都市化をめざす>

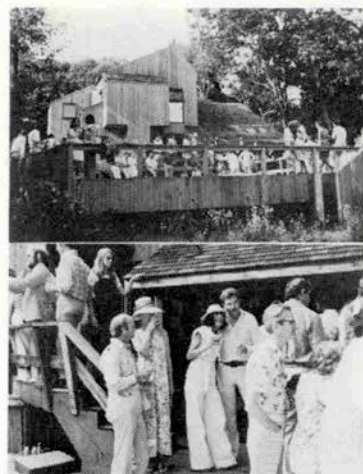
K. F. S. news 12

事務局／神戸市生田区元町通 2 丁目37村田ビル
 デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

● 8月のマンスリーサロン 「アメリカ建国 200 年 とそのファッション」

松浦 房子

<神戸大丸ファッションコーディネーター>
 K. F. S. 会員



上はグリーンハウス大流行<手づくりの家>
 下はそのパーティのナウファッション

「バイセンテニアルが行われたアメリカは、ニクソン事件や人種問題、戦争の終結などの後のことなので、アメリカ人自身がアメリカに生きていて良かったとアメリカ嫌いがアメリカ好きに変化して、たった 200 年でこれだけの文化を築いてきたアメリカ国民の自信

をとりもどしているようでした。

そのファッションは、歴史的な記念



日なので、当時の女性のモードをもう一度見直そう、原点にもどろうという姿勢ですね。パッチワークのファッションに、カーテン、人形、洋服、ベッドを手づくりにする。

どこかにスモッキングや、ししゅうを下手でもつけたり、スナップやボタン付け、たけ上げをしたりして、ホームソーイングの価値感、自分でつくる“自分の個性”に再び見直していかに分らしく着るかにアタックしているようです。

面白いのはイニシャルが重要化してアイロニーイニシャルや、木のイニシャルで自分自身や自分のもちもの、建物につけて自己主張する。またギンガムチェックやいわれのある柄、また小花プリントの安もの柄ですが、それはツギハギ木綿タイプのロングで着るといったのがホステス係なんです。

それに、ジーンズとTシャツの組合わせが子供から大人まで40才以上の人々も、パンツとTシャツ、パンタロンとTシャツといった感じで着こなしてます。

それからとても面白いのはフィラデルフィアは古い街なので、その原型を残そうと、昔のレンガ造りを10軒なら10軒の地域で買って 200 年前の姿もどす“ソサエティヒル”というスタイルの街づくりをしていました。

それから、いわゆるホームパーティが非常に多く開かれる。2～4時の英国風ティパーティ。日本酒があればその日本風パーティ。ジーンズパーティと朝、昼、夜のおしゃれを楽しみ、そのおしゃれに自分達のやったことをいろいろと下手でも話して楽しむのです。それに家庭菜園やグリーンハウスが大流行。機械文明から精神文明への移行がはっきりみられる今日のアメリカでした。」




アメリカ・アメリカを楽しむ松浦さん

MAKE UP WITH ROYAL

爽涼の秋に備えて
欧風調のタウングラスを
コレクトしてみました



 神戸眼鏡院

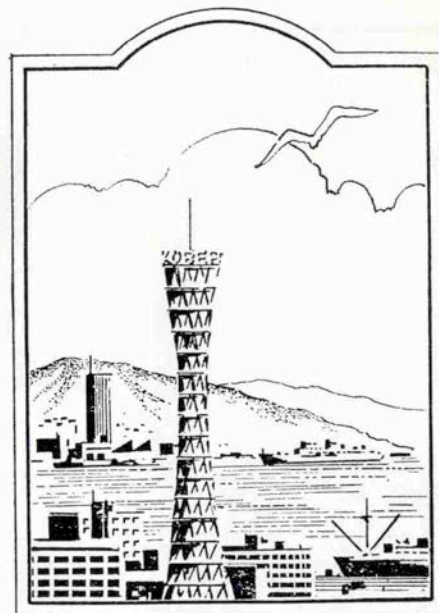
元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874〜5

元町店は毎水曜日が休みです

三宮店は第2、第3水曜日が休みです

マイ神戸、マイホテル



潮風が詩い、ファッションが踊る。ミナト町
神戸のロマンチックな想い出は、神戸タワー
サイドホテルから——エコノミカルな料金
システムや、神戸を代表するシーサイドレス
トラんで楽しめるヨーロッパの味。あなたの
旅のいち日を、心をこめてお迎えいたします。
シングル¥2,500〜¥3,800 ツイン¥6,000 ダブル¥6,800



神戸タワーサイドホテル

〒650 神戸市生田区波止場町1
TEL (078)351-2151 (代)